

第5回仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日時 令和2年10月13日(火) 18:00~19:00
- 2 会場 仙台市立病院 3階第3会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、今西陽一郎委員、古賀詔子委員、小針瑞男委員、鈴木信子委員、矢川昌宏委員(委員6名)
亀山病院事業管理者、奥田院長、鈴木理事、菅原次長(兼)経営管理部長、川口健康福祉局保健衛生部長、杉本看護部長、鈴木参事(兼)総務課長、堀江健康福祉局健康政策課医療政策担当課長、文屋経営医事課長、鎌田財務課長、福井総合サポートセンター副センター長、菅原財務課主幹(兼)財務係長、吉野企画医事係長、倉本診療情報管理士、矢口主事
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶
 - (3) 議事
 - ① 令和元年度決算について
 - ② 令和元年度経営的重点取り組み事項における実績
 - ③ 令和2年度経営的重点取り組み事項における第一四半期実績について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 配付資料
 - 資料1-1 令和元年度事業実績
 - 資料1-2 令和元年度決算の状況
 - 資料2-1 仙台市公立病院改革プラン2017
 - 資料2-2 仙台市立病院経営計画(2018年度~2020年度)[本編]
 - 資料3 令和元年度経営的重点取り組み事項
 - 資料4 令和2年度経営的重点取り組み事項

<議事概要>

(1) 開会

(2) 挨拶

亀山事業管理者から挨拶

(3) 議事

会議公開の確認 ⇒ 異議なし(傍聴者なし)

議事録署名委員 古賀委員、鈴木委員に依頼 ⇒ 了承

① 令和元年度決算について

(事務局から資料1-1、1-2を説明)

(質疑応答)

【古賀委員】

冒頭に亀山管理者よりお話がありましたが、令和元年度は開業医もものすごく患者さんが減っています。ということは当然、重症者も減っており、市立病院にお願いする患者さんも減っているというわけです。私も開業医ですが、令和元年度の2月、3月から既に減少が始まっておりました。この表(資料1-1及び1-2)は1年間を通したものになっていますが、令和元年度の1月までとそれ以降とか、コロナ前と後で区別をしていただくと、影響はそこから読み取れると思うのですが、そのあたりは如何でしょうか。

(市立病院事務局・鎌田課長)

配布資料には記載しておりませんが、当院での集計によりますと、2月まではそれほど影響がなかったように感じております。入院については、ほぼ前年度並みでした。外来については

前年度より 12%程度多かったです。それが 3 月になると大きく減り、落ち込みがあったように感じております。

【古賀委員】

その 3 月分というのがここに含まれていることになりますか。

(市立病院事務局・鎌田課長)

はい。3 月分も含まれております。

【今西委員】

この決算を見ていて、私はむしろ令和元年度の最後の 3 か月、おそらく全国的に、急性期中核的な病院というのが、一番経営的には苦しかったのではないかと考えているのですが、それにしてもよく持ちこたえたというのが正直な実感です。ただ、皆さんもお気づきのとおり、ご報告にもありましたが、入院の診療単価が平成 30 年度から、1,500 円ほど落ちています。これは特に、循環器内科の頻脈性不整脈の患者数が少し減ったことによる影響がここに来ているのではないかと考えています。頻脈性不整脈は診療単価が高いですから。それはコロナの影響があったのかもしれないが、いずれにせよ単価が下がったのはそのくらいです。それ以外は比較的、健闘されていると私は評価しております。

【矢川委員】

私は県内の民間病院も含め 50 件くらい担当していますが、特に仙台市立病院の特徴として、紹介率が非常に高い。そして、それ以上に逆紹介率も高いというのは、あまり類を見ない。そこに非常に戦略を立てられている。すごいなと毎回感じています。

それから、仙台市立病院と比較的近い大崎市民病院はベンチマークさせていただいていますが、1 年以内に返済すべき企業債の償還額、これがいわゆるキャッシュ・フロー計算書の業務キャッシュ・フローでまかなえれば良いが、なかなか難しいので、資本的収支のところ、他会計負担金等でまかなっているという状態になっているのが通常です。

仙台市立病院の場合、キャッシュ・フロー計算書を見てみると、プラス 5 億円くらいになっており、目標は 1 年の償還額ですが、そこまでは至っていない。しかし、数字的にはまずまずかなと思っています。資料 1-2 ですが、裏面の「資本的収支」、「一般会計からの繰入金」のところがわかりやすいと毎回思っております。令和元年度の一般会計繰入金の収益的収支が 20 億 1 千万円、この数字は前のページの他会計負担金 9 億 6 千 3 百万円と医業外収益の 10 億 4 千 7 百万円の合計である。それから、一般会計繰入金の資本的収支 8 億 3 千 5 百万円と、その上の他会計出資金と他会計負担金の合計で 8 億 3 千 5 百万円、これが綺麗に整合されていて、しっかりチェックされていると感じる。一般会計からの繰入金が、一般会計の歳入の何%になっているか、これが 4、5%だと一般会計でも負担感が大きいことになるが、仙台市の場合は財政規模が大きいので、1%を下回っているくらい。そのあたりのところは、会計士の観点として常に注意しております。以上でございます。

【藤森委員長】

一般病棟は非常に頑張っているが、全体の利用率があまり上がっていない。この差分は基本的に精神病棟だろうと思っています。これについて何か改善・改革案はありますか。

(市立病院事務局・亀山管理者)

コロナの影響があるためなかなか大変ですが、精神科だけでなく病院全体で、病床のあり方については検討しなければいけないと認識しております。

② 令和元年度経営的重点取り組み事項における実績

(事務局から資料 3 を説明)

(質疑応答)

【矢川委員】

自治体病院、特に地方の場合ですと、重点取組事項として 1 番に出てくるのは、ドクターの確保です。仙台市立病院ではそれが全く触れられていないということは、まったく問題ないと理解してよろしいでしょうか。

(市立病院事務局・亀山管理者)

診療科によっては確かにまだ不足しているところはあります。例をあげますと、新生児科の

専門医がいらないというのが1つ。それから、病理医の安定的な確保というのも課題です。よそから見れば潤沢にいるように見えるかもしれませんが、手術件数の増に伴って、麻酔科医の安定的な確保、救急科専門医など、あげればきりがありませんが、全てにおいてトータルの人件費を考慮したうえでよく判断したいと思っております。

【小針委員】

ベッドコントロールについて、看護師が行っているということだが、医師がこういうことをやるとだいたい横のつながりが薄れていくので、なかなか病棟に入り込めずに、お願いしますということが言えなくなるのですが、看護師は横のつながりが強いと思いますので、ベッドコントロールが非常に上手くまわっていきのらうと思います。その中で精神科と感染症について数字が悪いのは、科の特性というのがありますか。

(市立病院事務局・亀山管理者)

感染症に関しては、当院は第2種指定感染症の指定医療機関なので、そういう疾患の患者が来なければ、当然病床が空いてしまいます。精神科に関しては病院全体の課題としてとらえています。ただ特色としては身体合併症精神科救急をやるということで始めておりますので、仙台医療圏の中では一応の評価はいただいているのらうと思います。

【鈴木委員】

ベッドコントロールマネージャが看護師というお話でしたが、やはりかなりの権限を与えないと、違う患者さんを入れるというのは看護師の反対はもちろん、医師の反対や抵抗がかなりあるのではないかと想像しています。そのような中ですごく頑張ってもらって、皆さんのチームワークによって、このような高い稼働率なのらうと感銘いたしました。

(市立病院事務局・杉本看護部長)

ベッドコントロールについては、いろいろな先進病院を見せていただいて、PFMの推進のためには二本柱でなければいけないということで、皆様にもご理解をいただいたうえで、病床調整室に格上げしていただき、室長を看護師がさせていただいております。先生方のご理解に加えて、総合サポートセンターの方で「病床は誰のものでもなく、患者さんのものである」というスローガンを掲げていただいて、地道に活動していただいた成果です。課題としては、救急科の一般病床でいつまでも入院しているところを診療科に分けていくことなど、いくつかありますが、概ね順調に進んでいると思っております。

【藤森委員長】

一般病床稼働率が86%というのは公的病院としてはものすごく良い数字だらうと思うのですが、民間病院と比較すると90%は欲しいと思います。90%あればかなり経営は楽になるはずですが、この4%が、ベッドコントロールによって達成できるものなのか、何か他の取り組みが必要なのか、如何ですか。

(市立病院事務局・亀山管理者)

そこを目指してはいるのですが、NICUや小児科の病棟も入っているので、そういう意味ではますます病床調整室に活躍してもらってこれは自分たちのベッドだという思いをできるだけ払拭してもらうように、それが大事だらうと思います。おそらくコロナが収束すれば、遠い目標ではないと思います。

【古賀委員】

開業医の先生から急患として送られてきた方は1泊でも2泊でもできるだけ入院させていただいた方が開業医の先生も助かると思います。この患者は市立病院に行かなければいけないと思って送るわけですから、その辺の配慮はなされているのでしょうか。その方がベッドコントロールに役立つと思うのですが。

(市立病院事務局・奥田院長)

確かにこれまでそういう傾向が多少あったと思います。開業医の先生からの急患要請依頼は、積極的に受け、もちろん入院の必要性があると判断した場合は入院加療としますが、入院又は外来で経過を見る等迷った場合もご説明をしたうえで、入院加療していただくことで、できるだけ紹介には応えるという方針で頑張っていきたいと思っております。

- ③ 令和2年度経営的重点取り組み事項における第一四半期実績について
(事務局から資料4を説明)
(質疑応答)

【今西委員】

私が今一番頑張っていたきたいなと思っているのは、新入院患者数のアップであります。ちょうどこの重点取組の「④新たな患者の獲得増に向けた戦略的な取組み」、まさにこれを強化していただきたいと思っています。何故かと言うと、8月までで16%くらい昨年度と比較して入院の延患者数と新患者数がダウンしています。これを毎月に見るとほぼ戻りつつあると思いますが、私はそれを更に取り返すくらい頑張っていたければいいかと思っています。そこで、実は2つ意味があって、1つは救急の受入れの増。もう1つは、紹介患者の増というものにも力を入れていただきたい。これは特に地元の太白区や若林区の患者も減っていますが、名取市や南の方からの救急患者及び紹介患者も今減少しています。ですから、少し広域に患者を獲得しに行くことで増やしていければいいと思います。今、私がコンサルティングでお伺いしている大崎市民病院は、人間ドックや検診の二次検査の患者をできるだけ多く取り込むような工夫を今行っているところですよ。ご参考になればと思い申し上げました。

【矢川委員】

月単位で目標12億5千万円ということで設定しておられますが、月次決算をされていますよね。それがあがったときに、管理者や院長、経営管理部のトップの方々に対する説明は毎回されるのですか。

(市立病院事務局・文屋課長)

経営委員会を毎月開いておりますので、その時に数字は出しています。毎月20日前後に数字が固まりますが、経営委員会は毎月10日前後に開催しておりますので、その時点での速報値を示したうえで、翌月に確定値をお示ししております。

【矢川委員】

もう一点ですが、元年度もそうですが、診療材料費及び医薬品費の抑制について、具体的な業者さんとの交渉は経営管理部の方で行っているのでしょうか。

(市立病院事務局・高橋課長)

一括調達ということで、委託業者と提携しております。提携業者が納入業者と交渉を行い、一括で調達しております。その際に価格交渉もしまして、自治体病院協議会のベンチマークを使いながら、安くしてくださいという交渉を行っております。

【藤森委員長】

今西委員の言われた新規入院の確保は大事です。また、新規外来患者の確保と紹介率の向上もキーになっていて、資料1-1を見ると残念ながら令和元年度は減少しています。それはコロナウイルスの影響であれば全く問題はないですが、そうでなければ深刻に考えなければならぬのだと思います。また、この資料は公開資料ということですが、資料4の6ページの「収益向上に向けた研修会の実施」に関して、研修会の開催で加算取得はNGです。

(市立病院事務局・吉野係長)

医師の指示のもと、指導料や管理料の代行入力を医師の代わりに行うために保険診療に係る知識も最低限度必要であるため行っているものです。

【藤森委員長】

医師の指示に基づいてということでしょうか。意図的に加算がとれるものを探して、医師に提案するように読めてしまいますので、ここは書き方に気を付けた方がよいと思います。

(市立病院事務局・吉野係長)

わかりました。今後、記載の仕方について気を付けます。

【小針委員】

紹介患者を多くするという中で、最新の医療や興味のある医療など、優れた医療をしていれば開業医の先生方は自ずと市立病院に紹介をしてくるだろうと思われそうです。優れた医療をしているというアピールをどのような形でしておりますでしょうか。例えば、学会活動であるとか講演会であるとか。

(市立病院事務局・奥田院長)

広報誌「れんけい」で各科の紹介をしております。それから、昨年までですと、「連携の会」というものを催して、そこで各科からいろんなトピックや取り組み内容を紹介してもらっていました。今年度はコロナウイルスの関係で開催できておりません。そのような形で、各科の得意分野や新しい取り組み等を地域の先生方にお知らせしています。

(市立病院事務局・亀山管理者)

仙台医療圏は非常に多数の医療機関があって、病院間の競争が激しいので、良い診療を行うだけでは不十分で、やはり積極的な PR は必要なのだらうと思っております。そういう意味では藤森委員長がおっしゃったように、昨年度に紹介患者が少し減っているというのは大きな事として認識しております。そこに急にコロナウイルスが来てしまったので、なかなか思ったように PR も進まないというのが現実です。さらに努力していかなければならないと思っております。

【古賀委員】

市立病院に紹介すれば絶対に受け入れてくれるという安心感が必要で、重症でも軽症でもぜひいらしてくださいと窓口を広げることが非常に重要なのではないかと思います。以前は、市立病院はなかなか受け入れてくれないというのが評判になっておりました。よろしく願いたします。

(市立病院事務局・亀山管理者)

すぐにお引き受けできないというのは、今は発熱患者が来た時に人手が割かれてしまい、他の対応ができなくなってしまうことが多々あります。最初からコロナ陽性ということがわかっていればよいが、疑い患者の結果が出るまでになかなか時間がかかります。そういったことを背景に現在はなかなか受け入れられないというはあります。救急では 89% くらい紹介を受けるようになっておりますので、より一層、心してお受けするようになりたいと思えます。

(4) その他

【今西委員】

先日も仙台市立病院にプレゼンテーションをさせていただいたが、実は DPC 特定病院群に昇格できる可能性が高いのではないかと考えています。あと残りが 2 項目ほどクリアしますと、特定病院群に昇格することができます。県内では大崎市民病院と、石巻赤十字病院の 2 病院しか DPC 特定病院群になっておりませんので、ぜひこの機会に、コロナに負けずに、DPC 特定病院群を勝ち取っていただきたいと思えます。

(仙台市健康福祉局・堀江課長)

仙台市の健康福祉局でございます。仙台市公立病院改革プラン 2017 の関係でご報告があります。今年度は当該プランの最終年度でございまして、次期プランの策定を行う時期でもございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、公立病院改革プランの新しいガイドラインが示されていないという状況になっておりました。このため、令和 2 年 10 月 5 日の総務省の通知によりまして、新しいガイドラインはその時期も含めて改めてお示ししますということで、先送りが決定的というふうになりましたので、こちらの策定のあり方等についてもペンディングというふうなところになっております。ただ一方で、現在の改革プランの実施状況については、点検・評価を実施するようになっていることになっております。そのためには市立病院と相談ということにもなりますが、プランの点検・評価に関しまして、また、今後の改革プランの策定につきまして、本会議においてご相談をさせていただくということもあろうかと思えますので、この場をお借りしてご報告させていただきました。


(5) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 2 年 12 月 7 日

議事録署名委員

鈴木 信子 

古賀 詔子  